

産経新聞が今回入手した報告書はA4判13枚で、調査対象の16人が慰安婦と認定された理由や経緯、慰安所での体験などが記されている。だまされたり、無理やり連れて行かれたりして客を取られるなどの悲惨な境遇が描写されている。しかし、資料としての信頼性は薄い。当時、朝鮮半島では戸籍制度が整備されていたにもかかわらず、報

韓国に配慮 強制ありき

河野談話の根拠となった元慰安婦への政府聞き取り調査のずさんさが産経新聞が入手した資料で浮き彫りになった。談話はその後独り歩きし、国際社会での日本の立場を大きく傷つけている。

元慰安婦報告書

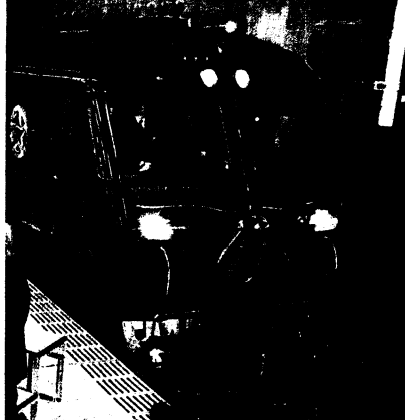
「当時、日韓関係を考え、外、関係省庁に公文書館とポイント（慰安婦募集「八方手」を添えて調べた）の強制性を認めるか、（石原氏）にもかかわらず、だいたった。それを、元慰安婦証文書も日本側の証言も見聞きの聞き取り調査内容を担当官から聞いた心証として認められた」

石原信雄元官房副長官は今、河野談話作成時の宮沢喜一内閣の事情を振り返った。石原氏は平成19年の民主党の会合では、「事実判断ではない、政治判断だった」と証言

「事実より外交」ツケ重く

しており、当時の政府首脳らのあやふやな「心証」が今も日本の足を引っ張っている。この頃、韓国側は元慰安婦の名譽回復に非常にこたえていた。そのため、日本政府に「強制」を認めるよう強く求めた。

「強制性を認めれば、問題は収まる」という判断があった。石原氏は産経新聞の17年のインタビューで、当時の政府の見通しをこう明かしている。ところが、政府が国内



「慰安婦」をめぐる主な出来事

- 日韓基本条約に伴う請求権協定締結。日本側は無償3億、有償2億を提供。日韓間の賠償問題は「完全かつ最終的に」解決したことを確認
- 吉田清治氏が著書「私の戦争犯罪—朝鮮人強制連行」で、軍の命令で済州島に行き「女子挺身隊」の名で若い女性らを連行してレイプしたなどと記述
- 同書韓国語版が翻訳出版。韓国で日本が「慰安婦」を強制連行したとの噂が拡散
- 「済州新聞」記者が同書の内容を検証取材。住民から事実を裏付ける証言を得られず、吉田氏の記述は「うそ」とする記事を掲載
- 韓国挺身隊問題対策協議会（挺対協）が発足
- 朝日新聞が「第二次大戦の際、「女子挺身隊」の名で戦場に連行され、日本人相手に売春行為を強いられた朝鮮人のうち1人がソウル市内に生存」と報道
- 朝日が報道した女性が記者会見で「貧しかったため、母親に40円で売られた」と証言。日本公権力による強制連行ではなく肉親による人身売買被害者と判明
- 加藤純一官房長官が慰安婦への「おわびと反省」の談話発表
- 旧日本軍による慰安婦募集の強制性を認めた「河野談話」を発表
- 女性のためのアジア平和国民基金（アジア女性基金）設立。首相の謝罪の手紙とともに償い金を配る事業が行われる
- 挺対協が「韓国政府が日本に賠償請求しないのは違法」と提訴
- アジア女性基金解散
- 韓国憲法裁判所が「韓国政府が日本に元慰安婦の賠償請求のための外交交渉の努力をしないことは違憲」の判断

た形跡もない。聞き取り時に確認した



「性奴隷の国」禍根残す

河野談話の柱だった元慰安婦16人の聞き取り調査。政治的決着を優先させ、がずさんな内容だったことが明らかになった。慰安婦の「強制連行」というテーマを国内外に広めるき、たとして強制連行を認め、たとして世界で受け止められ、たとしてソウルの駐韓日本大使館

前や、米国各地で慰安婦像が建てられ、現地で暮らす日本人子弟がいじめや嫌がらせを受けているのも、河野談話が問題に火をつけた結果といえる。

日本は「性奴隷（セックス・スレイブ）の国」と決め付けられ、事実と異なる反論しても、談話という形でコメントが出ているではないか（マイク・ホンダ米下院議員）と相手にな

公文書と呼ぶにはお粗末

河野談話の主な根拠が、元慰安婦16人の証言だったことは、河野洋平氏が自認しているところだが、日本政府は調査団がソウルで実施した聞き取り調査報告書の公開を拒んできた。

20年ぶりに目の目を見たこの報告書を目を通し、理由が分かったような気がした。身の上、氏名、年齢さえあやふやな慰安婦が多

新たな官房長官談話を

元慰安婦16人の中に40円でキーセンに売られたと会見で話した女性1人と、大阪、熊本、台湾という当時戦場ではなかった場所で開催された女性6人が含まれている。それ以外もおかしなことだらけで、誰一人権力による強制連行を証明できる者はいない。

私は平成3年から、「公権力による強制連行はなかった」と主張して、慰安婦たちは公権力者をつくり国際調停をたす本格的対策を打ち出すべきだ。政府として担当部

「西岡の言」ことが正とが必要だ。

元慰安婦報告書

河野談話作成時に事務方トップだった石原信雄元官房副長官は15日までに、産経新聞のインタビューに次のように語った。

(阿比留瑠比、佐々木美恵)

＝1面参照

「聞き取り調査結果を見ると生年月日や氏名、出身地の明記がない者が多い」

「証言者の身元がかなりあやふやという印象を持ったわけですね。(身元は、証言内容を判断する上で非常に重要な要素だ)」

「16人の中には、安東直ソウル大教授(当時)らの調査で信頼性が低いとされ、韓国側の証言集から省かれた人が含まれているようだ」

「信用できない人に日本政府が聞き取りしたと？」

「日本の複数の新聞や韓国側の調査に対し、それぞれ異なる証言をした人も含まれている」

「うーん。そういう話になると、基本がおかしくなる。もともとの証言の信頼性が揺らいでくる」

「そういうことになる」「証言者の人選は韓国側が

日本の善意裏切られた

石原元官房副長官に聞く



行った。私たちは韓国側を信頼し『反日運動をやっておらず、公正・冷静に自分の過去を語れる人を選んでくれ』と言いい、韓国側がそれを約束したから調査に行った。その根拠が揺らぐと何をか言わんやだ」

「対日裁判を起こした当事者も5人含まれる」「反日運動に関わっている人は外してくれと言いい、韓国側はそうします、と言っている」

「石原さんら日本側の理解はそうでも、現実とは違っていた可能性が高い」「残念ながら、当時の状況では身元調べというか、裏打ちするまで能力がなかった。信頼関係でやったわけだ、あ

「証言内容をチェックする時間はなかった。私は担当官の報告を聞いて判断した。紙は見えていない。報告を聞いての心証で河野談話をまとめた」

河野談話が強制性を認

めた根拠は、16人の証言が決め手だったはずだが「そうだ。担当官の報告を聞いて、大部分は家が貧しく泣く泣くだったのだらうが、中には筋の良くない人たちが相当悪辣な手段で集めたということが否定できない。そういう心証であの文書(談話)になった」

業者の悪辣な行動は日本軍の責任ではない

「だから『加藤談話』(平成4年の加藤紘一官房長官談話)は、わが方が直接運行したことを裏付けるものがないので(軍の関与は)ないとした」

聞き取り調査は証拠資料たり得ないのでは

「(証言者は)真実を語れる人、というのが調査の前提だった。その日本側の善意が裏切られたということになる。それに基づいて世界中に強制的に慰安婦にされたというところが事実として広まっていくなると、心外な話だ」

強制性を認めるための調査ではなかったか

「そんな意図は私にはなかった。国の名譽が関わる問題だから。ただ、役人としては時の政権の方針に従ってやるしかない。一切の弁解はしない」

慰安婦に対する聞き取り調査の主な内容(敬称略)

名前、出身地など、生年月日	聞き取り内容
金●● (明示的な記述なし) 全羅南道唐津郡なし	18歳のとき、8月に巡査が朝鮮人男性と来て「1年だけ工場に働きに出す」と連れ出された。ラングーン(軍人慰安所)で1日20人の軍人の相手をさせられた。金銭の授受は一切ない
黄●● (明示的な記述なし) 1927年12月1日	15歳で養女に行き、19歳のとき、養い親に白い令状がきて義姉の代わりに行った。「きつりん駅」からトラックでひどく寒い場所に連れて行かれ、軍人たちの相手をさせられた。4年目の8月に解放された
吉●● (明示的な記述なし) 1924年12月7日	17歳の秋のころ、軍人2人に無理やり、車に乗せられた。熊本の大きな家で、1日平均5人の軍人の相手をさせられた。5年間いて、爆撃らしきもので誰もいなくなり、逃げた
李●● (明示的な記述なし) なし	12歳のとき、巡査と韓国人通訳についていった。台湾に渡り、藤本という巡査宅で5年間家政婦をした後、山の慰安所で11カ月、その後高雄の特攻隊部署の慰安所で働いた。金は支給されなかった
白粉? (明示的な記述なし) 1926年3月23日	日本で親戚の手伝いをしていた。16歳のとき、洋服の男2人にジープに乗せられ、台湾で日本人と平壤出身の夫婦に引き渡された。客は昼が兵隊、夜は将校だった。昭和17年ごろマニラに連れて行かれ、その晩から客をとらされた。部隊についていろいろな所に行かされた
呂 (明示的な記述なし) 1921年	18歳のとき、巡査と軍人7～8人に連れ去られた。天津の奥地で、1日30人の軍人の相手をさせられた。2年以上そこにて、通訳の斡旋で平壤に逃げた
カン・●●● (明示的な記述なし) なし	赤い腕章を巻いた日本の軍人に連行された。軍の責任者と船で南方に向かった。パラオの番号の付いた部屋で1日に20～30人の相手をさせられ、やれないというと銃剣で殴られた
金●● 平壤 1924年10月20日	養父のもとでキーセン学校に通っていた。17歳のころ、平壤から北京に逃げたが、将校風の軍人に連れていかれた。「カッカ県」などで計4カ月ほど慰安婦をさせられた。朝鮮人の男が脱出させてくれ、中国国内を逃げ回った
石●● (明示的な記述なし) なし	19歳のとき、軍人の運転するトラックに乗せられ、漢口からトラックで2時間の谷間にある部隊の慰安所で働かされた。その後、民間の慰安所に入りハノイなどの慰安所で働いた。民間の慰安所は6対4で報酬をもらった
尹●● (明示的な記述なし) 1921年5月30日	1941年3月17日、韓国人と軍人が家に入って来てトラックに乗せられた。下関の紡績工場に2年間いたが、大阪で1年半、軍人相手の慰安婦をさせられ、下関でも軍人たちの相手をさせられた
金●● (明示的な記述なし) なし	18歳のころ、町内役場の職員と日本人が来て「日本に行けば金がもらえる」といわれ、断ると怖いので行った。大阪の倉庫のような建物で1日に何人もの相手を強要された。将校に助けられ、途中経過は記憶にないが、とにかく両親の家に戻った
朴●● (明示的な記述なし) 1921年10月22日	16歳のとき、日本人軍属の家で家事手伝いをしていたが、中国方面に働きに行くに連れて行かれた。ナツメキョウ、ユダマルなどいろいろな所で7年間、移動した。通常は1日15～20人の軍人の相手をさせられた
陳● (明示的な記述なし) 1923年5月10日	馬山の日本人の家で家政婦をしていたが、15歳のとき「いいことがある」といわれ軍人についていった。台湾の岡山航空隊で昼は看護婦、夜は呼ばれたときに軍人の相手をしていたが、その後慰安婦だけをするようになった
文●● ソウル 1924年10月21日	17歳のとき、夜、家に軍人と顔見知りの巡査が侵入し、ソウル駅から100人の女性とともに汽車で南京に連れていかれた。土日は多くの軍人、平日には将校が来た。慰安所では1銭ももらっていない
盧●● (明示的な記述なし) なし	1938年、17歳のころに畑仕事に、8～9人の軍人に捕まった。「オデサン」の慰安所に入れられた。夕食後は兵士の相手をさせられた。25歳のときに逃げ出し韓国に戻った
李●● (明示的な記述なし) 1920年8月6日	14歳のとき「工場に就職させてやる」と誘われ船でどこかに連れて行かれた。サイパン、パラオを移動していたらしい。ヤンの木の皮で造られた慰安所で軍人の相手をさせられた。計11年間慰安所生活をしていた

歴史認識

新聞週間を迎えた。今年は、安倍晋三政権で本格的な検討が行われている集団的自衛権の行使容認をめぐる議論と、慰安婦問題や村山富市首相談話など歴史認識をめぐる問題について、全国紙5紙の社説(産経は主張)を昭和にさかのぼって検証した。

(論説委員室)

＝「集団的自衛権」は中静敬一郎、「歴史認識」は石川水穂が担当

新聞週間2013 社説検証

慰安婦問題が誤解を招くようになった最大の理由は平成5年8月に出された河野洋平官房長官談話だ。

- ★河野洋平官房長官談話(平成5年8月)
 - 【朝日】8・5 戦後補償を正面の課題に
 - 【毎日】8・6 歴史の教訓として生かそう
 - 【読売】8・5 「強制性」認めた「慰安婦」調査
 - 【産経】8・5 すべてが「強制」だったのか
 - 【日経】8・5 戦争責任の総括的清算を
- ★石原信雄元官房副長官が証言(9年3月)
 - 【朝日】3・31 歴史から目をそらすまい
 - 【読売】4・13 まだ残る「日本性悪説」の呪縛
 - 【産経】3・14 河野氏は国会で事実語れ
- ★米下院外交委員で慰安婦決議(19年6月)
 - 【朝日】6・28 首相は深刻さを認識せよ
 - 【毎日】6・28 安倍外交にも問題がある
 - 【読売】6・28 米議会の「誤解」の根元を絶て
 - 【産経】6・28 事実を示し誤解を解こう
- ★日韓首脳会談(23年12月)
 - 【朝日】12・19 人道的打開策を探ろう
 - 【毎日】12・19 原則曲げずに対応を
 - 【読売】12・19 慰安婦で安易な妥協は禁物だ
 - 【産経】12・19 「融和」外交が禍根残した
 - 【日経】12・19 経済主導で日韓の対立を乗り越えよう
- ★李明博・韓国大統領の竹島不法上陸(24年8月)
 - 【朝日】8・31 枝でなく、幹を見よう
 - 【毎日】8・25 頭を冷やして考えよう
 - 【読売】8・29 「負の遺産」の見直しは当然だ
 - 【産経】9・1 偽りの河野談話破棄せよ
- ★橋下徹・大阪市長の発言(25年5月)
 - 【朝日】5・15 これが政治家の発言か
 - 【毎日】5・15 国際社会に通用しない
 - 【読売】5・16 女性の尊厳踏みにじる不見識
 - 【産経】5・15 女性の尊厳損ね許されぬ
 - 【日経】5・16 橋下氏への内外の厳しい視線
- ★米グレンデル市に慰安婦像(25年7月)
 - 【毎日】8・4 丁寧な説明今からでも
 - 【読売】8・1 憂うべき米国での「反日」拡大
 - 【産経】8・2 官民あげ曲解正す発信を

河野談話「朝毎VS.産読」鮮明に

1 慰安婦問題



米グレンデル市に設置された慰安婦像と記念撮影をする韓国人ら
＝7月30日、米カリフォルニア州(黒沢潤撮影)

を欠いた形で論じられることが多い。「日本の場合、官憲が『強制連行』したことを示す資料はない」と指摘し、朝日や毎日と距離を置くようになった。

読売は、元慰安婦への償い金支給事業を行ったアジア女性基金に関する17年2月6日付で「日本政府の一連の対応も、『不見識』としかいえないものも多かった。代表的なものは、一九九三年八月、宮沢政権下の河野洋平官房長官談話だろう」と明確に河野談話を批判した。

その後、河野談話を擁護する朝日・毎日と、談話見直しを求める読売・産経の主張がしばしば対立した。

「偽りの見解」は正要求

昨夏、慰安婦問題で日本の対応を不満とする李明博・韓国大統領の竹島不法上陸などを機に、日韓関係が急速に冷え込んだ。

朝日は、河野談話の見直しを求める一部政治家を批判し、野田佳彦首相に河野談話踏襲を改めて内外に明言するよう求めた。

これに対し、読売は「河野談話という自民党政権時代の『負の遺産』の見直し、産経は河野談話の破棄を求めた。

今年7月末、米カリフォルニア州グレンデル市で、韓国系住民の反日運動により慰安婦の少女像が設置された。

毎日「日本が国際社会に、こうした河野談話やアジア女性基金などの説明を十分に示さなかったという、外交発信の失敗も大きい」として、あくまで河野談話などの丁寧な説明を求めた。

これに対し、読売は「歪曲された歴史が、全米に喧伝されようとしている」と憂慮し、「河野談話が誤解の火種となった」と談話の見直しを求めた。

産経は河野談話から20年の8月4日付で「偽りの見解」を正すよう求めた。

日経は河野談話をあまり取り上げていないが、今年8月16日付で「談話を見直せば、政府が一度決めたものを覆すことになり、不信感を募らせることになる。どうか」と見直し論を疑問視し、朝日・毎日に近い立場を示した。

破綻した「強制連行」説

当時、官憲一内閣が内外で集めた慰安婦に関する公式文書も発表された。総数は二百数十点に及び、4年7月と5年8月の2回に分けて発表された。

読売「河野官房長官が『心からのお詫びと反省』の意を表明したのも当然だ」

毎日「政府がこれまでの行きがかりから抜け出て率直に歴史を直視したことは一歩前進と認めたい」

朝日「被害者の名誉回復への前進である」

他紙は談話を当然の結論として受け止めた。

当時、産経だけが「政府が何を根拠にこうした結論を導き出したのか必ずしもはつきりしない」

「慰安婦のほとんどが『強制連行』だったということが歴史的事実としてひとり歩きしてしまっている」と河野談話に疑問を提起した。

他紙は談話を当然の結論として受け止めた。

集めた公式文書には強制連行を示す証拠がなく、談話発表直前に韓国政府の要請で行った韓国元人元慰安婦16人からの聞き取り調査だけ「強制連行」を認めたことが明らかになった。

談話に基づく慰安婦「強制連行」説は破綻した。

産経は「近年のいわゆる従軍慰安婦問題なども、とかくバランス

集めた公式文書には強制連行を示す証拠がなく、談話発表直前に韓国政府の要請で行った韓国元人元慰安婦16人からの聞き取り調査だけ「強制連行」を認めたことが明らかになった。

談話に基づく慰安婦「強制連行」説は破綻した。

産経は「近年のいわゆる従軍慰安婦問題なども、とかくバランス

集めた公式文書には強制連行を示す証拠がなく、談話発表直前に韓国政府の要請で行った韓国元人元慰安婦16人からの聞き取り調査だけ「強制連行」を認めたことが明らかになった。

談話に基づく慰安婦「強制連行」説は破綻した。

産経は「近年のいわゆる従軍慰安婦問題なども、とかくバランス

集めた公式文書には強制連行を示す証拠がなく、談話発表直前に韓国政府の要請で行った韓国元人元慰安婦16人からの聞き取り調査だけ「強制連行」を認めたことが明らかになった。

談話に基づく慰安婦「強制連行」説は破綻した。

産経は「近年のいわゆる従軍慰安婦問題なども、とかくバランス

集めた公式文書には強制連行を示す証拠がなく、談話発表直前に韓国政府の要請で行った韓国元人元慰安婦16人からの聞き取り調査だけ「強制連行」を認めたことが明らかになった。

談話に基づく慰安婦「強制連行」説は破綻した。

産経は「近年のいわゆる従軍慰安婦問題なども、とかくバランス

誤報が独り歩き

「挺身隊」は昭和19(1944)年8月の女子挺身労働令に基づき、軍需工場などに動員された女子挺身隊のことだ。主に女学生や民間業者が軍需用に募集した慰安婦とは異なる。

その後、慰安婦と挺身隊を混同した記述は、韓国の教科書や日本の教師用指導書などで独り歩きした。

この誤報も、訂正されていない。

「挺身隊」は昭和19(1944)年8月の女子挺身労働令に基づき、軍需工場などに動員された女子挺身隊のことだ。主に女学生や民間業者が軍需用に募集した慰安婦とは異なる。

その後、慰安婦と挺身隊を混同した記述は、韓国の教科書や日本の教師用指導書などで独り歩きした。

この誤報も、訂正されていない。

「挺身隊」は昭和19(1944)年8月の女子挺身労働令に基づき、軍需工場などに動員された女子挺身隊のことだ。主に女学生や民間業者が軍需用に募集した慰安婦とは異なる。

その後、慰安婦と挺身隊を混同した記述は、韓国の教科書や日本の教師用指導書などで独り歩きした。

この誤報も、訂正されていない。

「挺身隊」は昭和19(1944)年8月の女子挺身労働令に基づき、軍需工場などに動員された女子挺身隊のことだ。主に女学生や民間業者が軍需用に募集した慰安婦とは異なる。

その後、慰安婦と挺身隊を混同した記述は、韓国の教科書や日本の教師用指導書などで独り歩きした。

この誤報も、訂正されていない。

「挺身隊」は昭和19(1944)年8月の女子挺身労働令に基づき、軍需工場などに動員された女子挺身隊のことだ。主に女学生や民間業者が軍需用に募集した慰安婦とは異なる。

その後、慰安婦と挺身隊を混同した記述は、韓国の教科書や日本の教師用指導書などで独り歩きした。

この誤報も、訂正されていない。

「挺身隊」は昭和19(1944)年8月の女子挺身労働令に基づき、軍需工場などに動員された女子挺身隊のことだ。主に女学生や民間業者が軍需用に募集した慰安婦とは異なる。

その後、慰安婦と挺身隊を混同した記述は、韓国の教科書や日本の教師用指導書などで独り歩きした。

この誤報も、訂正されていない。

★藤尾正文相「日韓併合は韓国側にも責任」

(昭和61年9月)

- 【朝日】9・9 歴史に学ぶ姿勢こそ
 【毎日】9・9 藤尾文相の罷免は妥当だ
 9・10 外交にもっと歴史の重みを
 9・12 日韓の確かな協調めざして
 【読売】9・7 閣僚の資質が問われる藤尾発言
 9・10 原点に立ち日韓修復を急げ
 【産経】9・9 藤尾文相罷免を支持する
 9・11 許されぬ政府の言論介入
 【日経】9・7 外交センスのない政治は国を滅ぼす

★奥野誠亮国土庁長官「盧溝橋事件は偶発的」

(63年5月)

- 【朝日】5・11 こんな歴史認識は通らない
 5・14 奥野辞任からなにを学ぶか
 【毎日】5・11 「原点」を忘れた奥野発言
 5・14 「奥野辞任」ですまされぬ問題
 【読売】5・12 奥野発言で考えるべきこと
 5・14 後味が悪い奥野辞任劇
 【産経】5・13 「奥野批判」だけですむか
 5・15 「奥野辞任」で考えること
 【日経】5・13 首相は「奥野発言」にけじめをつけよ

★永野茂門法相「南京大虐殺はでっち上げ」

(平成6年5月)

- 【朝日】5・7 法相は国益を深く傷つけた
 【毎日】5・7 首相は永野法相を更迭せよ
 【読売】5・7 法相の問題発言、撤回は当然だ
 【産経】5・7 日中共同で南京事件解明を
 5・9 また歴史歪めた法相更迭劇
 【日経】5・7 法相は自らの発言の責任を取れ

★桜井新環境庁長官「日本は侵略戦争をしようと思って戦ったのではない」

(6年8月)

- 【朝日】8・16 なぜ誤りが繰り返されるのか
 【毎日】8・16 謝罪・不戦の決議急げ
 【読売】8・16 また繰り返された不見識発言
 【産経】8・16 桜井氏更迭が意味するもの
 【日経】8・16 繰り返される戦争発言

★江藤隆美総務庁長官「日本は韓国にいいこともした」

(7年11月)

- 【朝日】11・14 江藤氏辞任でフタはできぬ
 【毎日】11・12 更迭しないで済む状況か
 【読売】11・10 報道倫理にもとるオフレコ破り
 11・12 閣僚の人事権はだれにあるのか
 【産経】11・14 政治の退廃を示す江藤辞任
 【日経】11・14 日韓関係の修復に全力を尽くせ

★田母神俊雄航空幕僚長「侵略国家は濡れ衣」

(20年10月)

- 【朝日】11・2 そっとする自衛官の暴走
 【毎日】11・2 トップがゆがんだ歴史観とは
 【読売】11・2 立場忘れた軽率な論文発表
 【産経】11・2 歴史観封じてはならない
 【日経】11・3 田母神空幕長の解任は当然

産読、オフレコ破りを指弾

閣僚らの歴史認識をめぐる発言が中国や韓国から次々と非難され、発言撤回や辞任を強いられた。
 最初のケースは昭和61年9月、中曽根康弘内閣の藤尾正文文相が月刊「文芸春秋」10月号で「日韓併合は韓国側にもいくらかの責任がある」などと述べた発言が問題とされ、藤尾文相は罷免された。
 各紙は一斉に藤尾発言を批判し、罷免を支持した。
 この問題では、事前に刷り出し原稿を入手した後藤田正晴官房長官が文春に抗議の電話をかけ、外務省のアジア局長が文春を訪れ、訂正を申し入れたことも明らかにした。
 文春は中曽根首相と後藤田官房長官に「憲法違反の事前検閲だ」と抗議した。産経だけが政

府の言論介入を批判した。
 63年5月には、奥野誠亮国土庁長官が国会で「日本に侵略の意図はなかった」「盧溝橋事件は偶発的」などと述べた発言が中韓両国から非難され、奥野氏は辞任した。
 各紙とも奥野発言を批判したが、産経は「奥野氏の正当な主張までも偏狭なナショナリズムへと追いやる愚は避けなければならぬ」と問題提起した。
 盧溝橋事件は昭和12年7月7日夜、北京郊外で発生し、日中戦争の発端になった事件だ。
 「偶発」説が定説だったが、当時は、定説すら中国に対して自由モノが言えない言論状況だった。今は、中国共産党「謀略」説も有力だ。
 平成7年11月、江藤隆美総務庁長官が内閣記者会とのオフレコ

コ懇談で「植民地時代に日本は韓国にいいこともした」などと話した内容が韓国紙に漏れ、江藤長官は辞任した。
 オフレコ懇談は「書かない」ことを約束に、大臣や事務次官らが親しい記者を集め、政策決定の背景や舞台裏、公式には言えない本音などを語る独特の取材形式である。
 読売は「『ニュースソースの秘匿』という最低限のルールが守られず、国内の雑誌や外国報道機関に通報されたことを、同じ報道に携わる者として、極めて遺憾に思う。報道の倫理に悖る『犯罪的行為』と言つべきものだ」とオフレコ破りを強く批判した。
 産経も「モラルを失った一部記者の、韓国紙へのオフレコ発言『通報』によって政治問題化

したのである。一部マスコミのオフレコ破りという邪道が政治を左右した」と指弾した。
 これに対し、朝日は「表ではうまく建前を語り、本心はオフレコで語るといふのでは、本当の日韓友好など育つわけがない」とした。
 毎日「オフレコ取材は可能な限り減らす、オフレコは安易に認めないなど取材ルールを再検討するきっかけにすべきではないだろうか」とオフレコ懇談そのものに疑問を投じた。
 なお、この問題では、毎日などが韓国紙の報道で「オフレコの意味がなくなった」として懇談の要旨を公表したのに対し、読売と産経は非公開を貫いた。

最近では、20年10月、田母神俊雄航空幕僚長が先の大戦を侵略とする見方に疑問を示す論文を書いたとして、更迭された。
 朝日は「こんなゆがんだ考えの持ち主が、こともあろうに自衛隊組織のトップにいたとは。驚き、あきれ、そして心胆が寒くなるような事件である」。毎日「航空自衛隊のトップがゆがんだ歴史認識を堂々と発表する風潮に、驚くばかりだ」とそれぞれ田母神論文を激しく非難した。
 産経は「政府の一員としてそうしたことに配慮が足りなかったこと」に反省を求めつつ、「何の弁明の機会も与えぬまま更迭した政府の姿勢も極めて異常である」と更迭人事を批判した。
 全体として、朝日や毎日、中韓に同調し、日本の閣僚の歴史認識をめぐる発言を激しく非難する傾向が強い。
 これに対し、読売と産経は「閣僚の発言」中韓の非難「閣僚更迭」の悪循環に懸念を示した。

首相談話

★村山富市首相談話（平成7年8月）

- 【朝日】8・16 言葉で終わらせないために
- 【毎日】8・16 肉付けが必要な首相談話
- 【産経】8・16 「公」でなく「私」の村山談話
- 【日経】8・16 「侵略」を認めるまで五十年かかった

★小泉純一郎首相談話（17年8月）

- 【朝日】8・16 首相談話を生かしたい
- 【毎日】8・16 首相は言葉の重み忘れずに
- 【読売】8・16 軍国主義への回帰はあり得ない
- 【産経】8・16 広く国民が参拝する場に
- 【日経】8・16 首相は言葉より行動で示せ

★菅直人首相の日韓併合100年談話（22年8月）

- 【朝日】8・11 新しい日韓協働の礎に
- 【毎日】8・11 未来へ向け日韓の礎に
- 【読売】8・11 未来志向の両国関係に弾みを
- 【産経】8・10 禍根残す菅談話に反対だ
- 8・11 「自虐」談話は歴史歪める
- 【日経】8・11 未来志向の日韓関係へ行動を

★村山談話に触れた今年の社説（25年）

- 【朝日】8・15 内向き思考を抜け出そう
- 【毎日】8・15 積み重ねた歴史の重さ
- 【産経】7・18 曲解を拒否する姿勢貫け
- 【日経】8・16 政治指導者は過去より未来に目を

村山談話に対しても、産経だけが「一国の指導者として国の名誉を守るべき『公』をついに自覚する」となく、あくまで社会党の党首としての『私』のみを

近年、日本の歴代内閣の歴史認識を縛ってきた村山富市首相談話は、戦後50年にあたる平成7年8月15日に出された。「遠くない過去の一時期、国策を誤り」と日本の過去を断罪し、「植民地支配と侵略」への「痛切な反省の意」と「心からのお詫びの気持ち」を表明した内容である。

優先する姿勢に首相としての矜持はつかえない」と疑問を指摘した。読売を除く他紙は村山談話を高く評価した。朝日「何に対しての反省と謝罪なのか、これまでよりはっきり読み取ることができ」

日経「五十年のけじめにきちんとした表現で認識を表明したのは正しい決断であった」読売は直接の評価を避けた。村山談話の表現は、その後の首相談話や全国戦没者追悼式的首相式辞などに引用された。戦後60年の17年8月15日に小泉純一郎

村山談話継承求める朝毎

首相が出した談話も、村山談話をほぼ踏襲した内容だった。小泉氏の公約である靖国神社参拝が行われるかも注目されたが、この日の参拝はなかった。

各紙は、首相靖国参拝の問題と絡めて小泉談話を論じた。

朝日と日経は、村山談話を踏襲した小泉談話を評価しつつ、言葉を行動で示すためには靖国参拝を控えるべきだとした。毎日も「『小泉談話』として定着させるには、靖国問題を含め解決すべき多くの課題が残っている」とした。

これに対し、産経は小泉首相が続けてきた年1回の靖国参拝を願う一方、小泉談話については「村山談話が出された自社政権時代とは内外の状況が大きく変わっている。もっと小泉色を出してほし

かった」と不満をにじませた。

日韓併合100年にあたる22年8月、菅直人首相は「（日本の）植民地支配によって、（韓国の人々は）国と文化を奪われ、民族の誇りを深く傷つけられた」と村山談話より踏み込んだ謝罪談話を発表した。菅談話にも、産経だけが「明治以降の日本の先人たちの努力をほぼ全否定し、韓国の立場だけを述べている。どこの国の首相か疑ってしまう」と強く批判し、他紙は菅談話を評価した。

一連の首相談話や首相式辞のもとになった村山談話は自社政権時代の7年8月15日の閣議で、唐突に出されたものだ。当時の野坂浩賢官房長官が有力閣僚や与党幹部に内容を詳しく説明せず、「総理の気持ちなので、何も言わずに了解してほしい」と頭を下げて根回ししたといわれる。

産経は、談話の作成から閣議決定に至る過程の検証を繰り返し求めた。

一方、朝日は今年8月15日付で、安倍晋三首相が当初、村山談話継承を明言しなかったことを批判し、毎日と同じ8月15日付で、村山談話を「世界からの信頼をつなぎとめる外交資産」だとした。

村山談話の検証を求める産経と、談話の継承を求める朝日・毎日の主張が対立している。